

上半期も残りわずか。 各隊員の活動を一挙紹介!

協力隊だより

九転十起

発行者 氷見市地域おこし協力隊
所在地 氷見市鞍川1060番地
氷見市地方創生と自治
への未来対話推進課内
電話 0766 (74) 8013

農業六次産業化担当

速川地区に移住して3ヶ月、ようやく1つの実りを完成させることが出来ました。6月より、小窪営農組合さんよりビニールハウスの空きスペースと設備をお借りして、速川地区の方々の協力をお借りして、丹精込めて育ててきたトマト「華小町」を8月4日に初出荷することが出来ました。この品種は、トマト特有の臭みがなく、皮が柔らかく、高糖度(約8%)で甘みの強いのが特徴です。そして何より、完熟の鮮やかな赤い色が食欲をそそり、芸術品のようにさえ感じます。トマトが苦手という方も是非お勧めしたい品種です。

今後、トマト以外の地域特産物の発掘と商品化、6次産業化に向けてのお手伝いを地域の方々と共に頑張りたいと思います。(澤田)



速川地区小窪で栽培された「華小町」が
8月6日に初出荷

里山担当の稲垣です。速川地区の活動については、『広報ひみ9月号』に私の活

動が記載されていますので読んで下さい。7月に速川地区の『百合と音楽の観賞会』と仏生寺地区の『三千坊の草刈り』の活動に参加させて頂きました。速川では、石川県宝達志水町、仏生寺では、高岡市山川地区の皆さんと事業を協働で取り組んでいます。隣接する地区との協働作業、全国でも出来るよう出来ない取り組みです。このような取り組みを継続的にこれまで続けてきた氷見市民の人々は、本当に素晴らしい立派だと思います。これからも、私自身も氷見市の里山が活性化につながるよう頑張っていきたいと思っておりますので、皆様よろしくお願ひします。(稲垣)

まちづくり担当

藤田・山下は氷見市の中央市街地で空き家調査に取り組んでいます。現在は、インターネットの地図サイトを利用して外観写真から通り沿いにある建物の特徴を記録する作業と、地域の自治会の方たちにご協力をいただいて地域の空き家情報を記入してもらいその情報をまとめていく作業に携っています。

先日、加納地区の間島、新道で案内をしていただきながら実地で空き家の調査を行いました。氷見では現状で住んでいる方がいないお宅でも、親族の方たちが掃除をしていてきちんと管理されている家が多いと感じました。単純

氷見市地域おこし協力隊 &
やねたん市民参加者
活動報告会開催決定
9月6日 日曜日 15時30分～18時00分
市民会議室(旧有機高校記念会館)

漁業文化発信担当

7月27日～31日、夏休みの平日5日間連続で地球環境防衛隊養成道場が「魚々座」を中心に市内の各フィールドで開催されました。毎日違うテーマ(初日から「プラシトン」、「ゴンブ」、「海のさかなと藻場」、「川のさかな」、「さかなが食卓にあがるまで」)を設定。東京海洋大学の学生がリーダーを務め、子どもたちは設定されたテーマのもと自由な発想で学んで遊びました。氷見の海や山や川のポテンシャルを確認できたことが一番の収

に、移住者に貸し出すだけでは地域のためにはならないと思いますので、地域の事情に合わせて空き家を活用できるようお手伝いできればと考えています。(山下)
着任から3ヶ月、主な業務は9月オープンのまちづくりバンク(仮称)の運営企画でした。どのような展示をするか、どのようなサービスを提供するのか、市の担当者と一緒にゼロから考えていきました。いよいよオープン間際、内装工事も着々と進み、そうした作業も佳境を迎えています。どのような施設になるのか、オープン後に是非確かめに来て下さい。その他の活動として、学生インターンの受入について計画中です。年度内には試験的に実践していきますが、こちらはまたの機会にご紹介できればと考えています。あわせてご期待ください。(藤田)



地球環境防衛隊養成道場の1コマ
マダイを探す子ども達

穫です。子どもたちの発想力や応用力は無尽大。「場」があれば勝手に遊び、勝手に学びます。協力隊としての活動にひとつの軸ができた気がした1週間でした。最後に参加者の子どもからももらった手紙はぼくの財産です。(左座)

8月6日より氷見市宮田学童保育館で「えいぞうづくり教室」を実施しています。対象は宮田校区の小学生です。8月は漁網の補修糸をつかったコマ撮りアニメーションにチャレンジしてもらい、計4本の映像作品が子ども達の手によって完成されました。作品を仕上げるにはグループ内でのチームワークが必要不可欠です。各々が頭の中で思い描いている形をきちんと周りに伝えなくては作業が進みません。この教室は映像制作のテクニックを学ぶだけではなく、制作する過程での衝突、創造的な行為を経験してもらい、ことで、未来の氷見市をつくる「視点を養ってほしい」との思いで実施しています。3月末まで全20回を予定しており、今後はドキュメンタリーや映画を制作するプログラムを検討中です。(釜石)

過去を視る

釜石 拓真

7月26日敷田地区の納涼祭で映像を発表する機会を頂きました。地区の人全員が楽しめるテーマはなんだろうと頭を悩ませていた折、敷田小学校で行われた行事や授業風景を記録したビデオオカセットテープ約30本をお借りすることができました。これら全て昭和50～58年当時撮影された貴重な映像だったので皆さんの前でお披露目することに決めました。納涼会当日、上映がはじまると「わたしが映ってる!」「木造の校舎がなつかしいなあ」など声が飛び交い、食い入るように画面を見つめて

いました。なかでも「今まで更地になった小学校の跡地を直視できなかつたけど、これからは大丈夫かもしれないわ」と言ってもらえたことが敷田に移住して3ヶ月、1番うれしかった出来事です。私が生まれる10年以上も前の記録でしたがどこか懐かしくまた、集落の記憶に触れることができました。ように感じました。



敷田地区納涼祭の様子。上映しているのは昭和58年度敷田小学校秋季運動会の映像

協力隊員がみつけた氷見のいいところ

ひみまつり はかま

里山の「旬」

澤田 典久

旬な味わい。「氷見」という思い浮かべるのが、新鮮な魚介であり、海の幸の宝庫であるかもしれない。しかし、能越自動車道を挟んで西側の山間部にも、山の幸、畑の宝物が数多く存在する。特に、お婆ちゃんやんが耕す畑で獲れた形は悪いが新鮮な

ナスやキュウリたち、虫たちの影響を受けて穴だらけのキャベツ、農薬を使わず自然のまま育てたジャガイモなど、昔ながらの味わいが氷見の里山には現存している。これから秋に向かい、益々収穫の時期を迎える野菜や果物たち。その多くの宝物を旬の時期に、旬の「氷見」で味わっていただきたいと思いま

静かに燃ゆる ひみまつり

山下 健太郎

8月1日に行われたひみまつりの氷見音頭輪踊りに参加してきました。「音頭」と聞くと太鼓が響く賑やかなものを期待しつつ慣れない浴衣に着替えましたが、聞こえてくるお囃子は三味線が主体の落ち着いた調べ。その幽玄な雰囲気はまだ日中の熱を残す海辺が一瞬無音になったような、不思議な感じ

でした。最初は見よう見まねで手足を動かしていましたが、30分ほど踊り続けているうちにじんわりと楽しくなってきました。静かなながらも燃えてくる感じって氷見らしいな、やはり踊りには地域性が出るのだなと実感。その後も出店で地元の食材を活かした料理を味わい、ファイナルの花火は家のある敷田の海岸からゆっくり眺めて、初めてのひみまつりは一日中楽しむことができました。

今後の活動予定

さぎ しんすけ
左座 進介

■10月に第2回ひみ永久グルメ博覧会が開催されます。「食」は僕の地域おこし協力隊としての大きなテーマであり、今回の企画にも関わらせてもらっています。こだわりや技術をもった生産者、加工業者、料理人が一堂に会し、消費者と「氷見の食」を語りながら楽しむ場を魚々座で作りたいなあと思案中です!

ふじた ともひこ
藤田 智彦

■まちづくりバンク(仮称)がついにオープンを迎えます。正式オープンは19日ですが、プレオープン期間をはじめ、オープン後も様々な企画を用意していく予定です。是非一度気軽にお越しください!

やました けんたろう
山下 健太郎

■9月19日に中央町交差点角にまちづくりバンク(仮称)がオープンします。それに向けたローワーワークショップを行う予定です。また、空き家調査も外観をさらに詳しく調べるなど、今後活用していくために必要な情報を探っていく予定です。

いながき しんじ
稲垣 信志

■8月は、秋野菜の収穫に向けて草刈りを行ってまいります。また、秋野菜の収穫で農家さんと都市住民の人たちが、笑顔で楽しめる都市農村交流が出来るとな事業を計画して行きたいと思っています。

さわた のりひこ
澤田 典久

■9月3日より、インターネットシッ

で金沢大学の学生4名が速川地区早借にて2週間協力隊員と共に共同生活を送り、速川地区の取り組みや地区住民からの意見聴取、地元の伝統行事への参加を通じて、地域や市に対しての提案や課題解決を実地研修で行ってまいります。ご近所の方、ご興味のある方ぜひ気軽にお声かけ下さい。

かまいし たくま
釜石 拓真

■宮田学童保育園で「えいぞうづくり教室」を引き続き実施致します。夏休み以降は毎週月曜日開催です。またVHS、ベータ、8ミリビデオなど皆様のお宅に眠っている昔の映像資料をデジタルデータ化し上映会を開催する試みもはじめる予定です。